

学習内容と到達目標

☞ 物の形状や特徴を説明できるようになる。また、相手の説明を聞き、それが何かを当てることができるようになる。

前半：[1. VOCABULARY] ～ [4. LISTENING] (イ形容詞の導入)

後半：[5. VOCABULARY] ～ [10. SPEAKING] (「3つの質問」の活動に向けた練習)

指導のポイント

**1. VOCABULARY**

ここである程度語彙を定着させておく。予習が不十分で、語彙の定着も不十分と判断した時は、例えば②で CD を聞いて答えを確認した後に、以下のように反対語を言わせるなどをして定着を図る。

練習例

T：おおきい

S：ちいさい

T：おもい

S：かるい

語彙の選択に関して

Vol.2 のはしがきにも書いたように、このテキストでは、各課の目標はあくまでも「課題の遂行」であって、語彙も「その課題をこなすために必要なものから先に教えていく」という方針で選択されている。例えばこの6課では、他のテキストでは必ずと言っていいほど最初に提示される「新しい」や「難しい」、「いい」などが最初に出てこず、かわりに「太い」や「硬い」が出てくるが、これはこの課の到達目標が「物の形状や材質について質問し、それが何であるかを当てる」というタスクの遂行に置かれているからである。

**2. LISTENING**

①では CD を途中で止めずに流しっぱなしにし、CD のスピードについていけるかどうかが重要。間髪入れずに反対語が出てくれば問題なし。

**3. FOCUS**

「いい」は7課まで出てこないが、活用に関して唯一の例外なので、ここで教えてもよい。

**4. LISTENING**

①の指示文にある「positive statements」「negative statements」というのは、肯定形か否定形かということ。肯定的な意味か否定的な意味かということではないので注意。意味的な処理までもとめるのは次の②。

**5. VOCABULARY**

③は次にある [6. LISTENING] の予行練習。

**6. LISTENING**

真面目に聞かないと、ネイティブでも答えがわからないので、要注意。

## 7. PAIR WORK

活動を始める前に CD (1-27) を聞き、ルールを確認する (例 1 では 3 つ目の質問で正解を得たため 1 点、例 2 では 2 つ目の質問で正解を得たため 3 点がそれぞれ与えられる)。この活動は、[6. LISTENING] のように、最初は 55 ページにある写真を使って行うが、学習者が慣れたら、それ以外の物にまで解答の範囲を広げて練習する (正解にたどり着くのが難しくなった分、質問できる回数を 3 回から 5 回にする)。

## 9. FOCUS

2 つの形容詞を「～くて」でつなぐか、「～ですが」でつなぐかは、話者が文の意味をどう解釈するかによって変わること注意到。

例 1. 「安くて、おいしい」

例 2. 「安いですが、おいしい」 (安ければまずいのが当然。なのに、・・・)

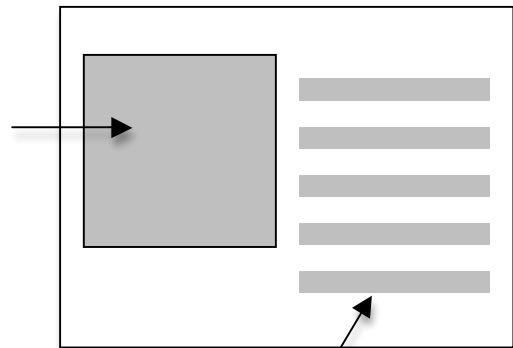
### 活動例

- ☞ 第 6 課は覚えなければならない語彙が多く、イ形容詞の活用や形容詞文の接続など、文法事項も多いので、特別な活動は用意せず、[7. PAIR WORK] を広げて練習するにとどめた。

### 授業で使えるリソース

- ☞ 55 ページの写真を使わずに学生同士で [7. PAIR WORK] の練習をする時、クラスの雰囲気が今ひとつ盛り上がりがないようなら、教師が用意した問題をみんなで考えさせるのも 1 つの方法。その際、PPT のスライドに Yahoo! や Google で検索した画像を貼付け、アニメーション機能を使って、ヒントが 1 つずつ順番に提示されるようにする。

画像：アニメーション機能を使い、一番最後に提示されるようにする。



ヒント：アニメーション機能を使い、マウスをクリックすると、1 つずつ順番にヒントが提示されるようにする